

令和元年度の主な取り組み

海老名駅西口区画整理事業が完成し、東西一体のまちづくりが形になりました。海老名駅を中心に人々の往来が盛んになることで市税収入の増加につながり、海老名の元気を支えるエンジンとなっています。また、家庭系ごみの一部有料化と燃やせるごみの戸別収集導入など、ハード・ソフト両面から新たなまちづくりを力強く推進しました。

にぎわいと活力あふれる
元気なまちづくり

厚木駅南地区市街地 再開発の推進

6億8600万円



厚木駅南地区市街地再開発イメージ

土地の高度利用や商業機能の誘致を推進し都市基盤の整備を図るため、再開発組合が行う市街地再開発事業を補助しました。

市立小・中学校 修学旅行への補助

2500万円

市立小・中学校19校の児童生徒の保護者の負担軽減を図るため、修学旅行費用を補助しました。

誰もがいきいきと
暮らせるまちづくり

第二高齢者生きがい会館 の開設

800万円

高齢者の就労機会の拡大を図るため、新施設として開設しました。



第二高齢者生きがい会館

子どもの学習・生活支援 事業の創設

300万円

生活困窮世帯の中学生に学習や生活の支援を行い、高校進学を促すことで貧困の連鎖を防ぎ、自立の促進を図りました。

プレミアム付商品券の発行

5億9900万円

消費増税対策として、全市民対象のプレミアム付商品券を発行し、消費の落ち込みを抑えるとともに、地域経済の活性化を図りました。

安全・安心なまちづくり

(仮称)消防署西分署の 整備推進(継続事業)

6600万円

駅間開発などによる商業の活性化や人口増に伴う消防・救急需要に対応するための整備を進めました。来年4月開署予定です。



西分署イメージ

環境に優しいまちづくり

資源化センターの 大規模改修工事 (継続事業)

12億2200万円

資源化センター大規模改修基本計画に基づき、処理能力の拡充、作業環境の改善、周辺環境への影響に配慮するため、大規模改修工事を行いました。



資源化センター

一部有料化および 戸別収集導入による ごみ減量化の推進

1億4900万円

家庭から排出されるごみのさらなる分別と減量化を目指し、昨年9月30日から、家庭系ごみの一部有料化と燃やせるごみの戸別収集を始めました。



戸別収集の様子

40歳はしご車、北分署 高規格救急車の更新

2億5600万円



はしご車

老朽化したはしご車と救急車を更新し、出勤体制の充実を図りました。

救急隊員の身体的負担を軽減する作業支援用ロボットスーツや、庁舎が使用できない状況でも屋外で災害対策本部を開設することができる大型エアートントを導入しました。

ロボットスーツHAL[®]や 大型エアートントの導入

1000万円



大型エアートント

便利で快適なまちづくり

(仮称)上郷河原口線、 並木橋歩道橋架設事業の 整備推進(継続事業)

11億7800万円

海老名駅東西を結ぶ周辺道路の交通渋滞の緩和に向け、道路交通の円滑化と利便性の向上のため、整備を進めました。



並木橋歩道橋架設イメージ

相鉄海老名駅舎および 北口駅前広場の整備推進

3億3300万円

相鉄線海老名駅北口改札設置を含む海老名駅の整備に伴い、連絡通路や北口駅前広場の整備を進め、駅施設利用者の安全性および利便性の向上を図りました。

元気で健康なまちづくり

BCG予防接種と 1歳6カ月歯科健診の 個別受診化

1800万円

各医療機関での個別受診へ移行し、受診者の利便性を向上しました。

海老名市版オーラル フレイル事業の普及促進

1400万円

55歳以上を対象とした「オーラルフレイル健診」を行うことで口腔機能の低下予防に努め、健康寿命の延伸を図りました。

安心して子育てができる
まちづくり

親と子の相談支援事業の 創設

1300万円

子どもの発育・発達に不安を感じている保護者の相談に常時応じられる体制を整えました。

次世代を見据えた
都市経営

若者定住促進家賃 補助事業、奨学金返還 補助事業の継続

3300万円

家賃や奨学金の返還が経済的負担となる若者世代へ引き続き支援を行い、転入促進と転出抑制を図りました。

「えび〜」にやコンサルジュ の導入

300万円

市ホームページとLINEから効率的に情報検索ができるようチャットボットの運用を始めました。

モバイルレジ・クレジット サービスの実施

200万円

バーコードをスマートフォンで読み取ることで、モバイルレジとクレジットカードで簡単に支払いができるサービスを導入しました。